４　稼ぐ力の向上によるブランド産地の育成（ばれいしょ）

【成果の要約】
1　税理士による個別相談会を行い，将来の法人化に向けて検討し大規模志向農家の育成支援を行った。
2　腐敗性病害の発生ありと発生なしのほ場の聞き取り調査を行い，結果をとりまとめ実態が把握できた。
3　展示ほ 21 か所を島内の異なる地域に設置し実証農家以外の農家へのしまあかりの普及啓発を行った。

１　対象

和泊町園芸振興会ばれいしょ部会 316 戸，知名町園芸振興会ばれいしょ部会 280 戸

２　課題を取り上げた理由

（１）農家数の減少は避けられないため，規模拡大に向けた農地及び労働力の確保，省力技術の導入を図り，大規模経営体を育成する。
（２）近年，栽培途中の茎葉と収穫後の塊茎に発生する腐敗性病害が問題となっている。腐敗性病害の実態把握と防除対策を検討し，地区内の平年単収の向上を図る。
（３）県内外のシストセンチュウ抵抗性品種の導入推進を図るため，現地適応性の確認，管理技術の組立を図る。

３　活動内容と成果

（１）ばれいしょの生産性の向上

ア　大規模化志向農家の育成支援

大規模志向農家２戸に対して病害虫等の栽培や経営管理について支援した。知名町の農家は税理士による個別相談会を行い，将来の法人化に向けて設立のタイミングや税制のメリット等について助言をもらい検討した。

法人化個別相談会

（２）ばれいしょの単収向上

ア　腐敗性病害の実態把握

腐敗性病害の発生があるほ場と発生のないほ場35か所を茎葉の異常と塊茎の腐敗状況・耕種概要・種イモの状況・栽培管理・収量等について農家 18 戸の聞き取り調査を行い，結果をとりまとめた。病原菌を特定するために１月から３月まで月１回農業開発総合センター大島支場病害虫研究室と連携して島内７か所の定点を設置して植物体の抜き取り調査を行った。

腐敗性病害の聞き取り調査

イ　生産安定対策技術支援

ばれいしょの栽培講習会，ＬＩＮＥ等を活用した病害虫対策の周知を行い，生産安定対策技術の向上に向けた支援を行った。

講習会での病害虫対策の周知

ウ　シストセンチュウ抵抗性品種の現地実証

実証ほ（10a 実証による適性評価，北海道種馬産地産と種苗管理センターの種いも比較，北海道種馬産地産 11 月植え）の設置を行った。更に，展示ほ 21 か所を島内の異なる地域に設置し実証農家以外の農家へのしまあかりの普及啓発を行った。令和 10 年までのしまあかりの導入及び普及計画等も作成した。これまでの実証農家の「しまあかり」評価は良好で，抵抗性品種の必要性を理解している。

展示ほの設置

4　今後の課題

（１）大規模化志向農家の育成
（２）疫学調査に基づく腐敗性病害の軽減対策の確立
（３）しまあかりの栽培技術の向上と面積拡大

5　担当した普及職員（〇印はチーフ）

〇水迫，下池，折田

５ 稼ぐ力の向上によるブランド産地の育成（花き：テッポウユリ）

【成果の要約】

1　テッポウユリ初の八重品種「咲八姫」の生産・販売・PR の支援を行った結果，令和６年産の出荷本数は，昨年に比べ約２倍増加した。また，今年度の切花植付球数は昨年度の約 1.5 倍となった。

2　露地適応性品種「スカイホルン」の露地栽培実証を行った結果，「ひのもと」と比較して草丈が 10cm 程度高く，目標の３輪・85cm を確保することができた。

3　出荷予測技術の確立に向けデータ収集を行った。今後，データを活用し精度の高い出荷予測の実現が期待される。

１　対象

テッポウユリ生産者　和泊町 44 戸，知名町 25 戸

２　課題を取り上げた理由

（１）沖永良部のテッポウユリは，生産者の高齢化や施設の老朽化により生産量，販売額ともに減少傾向である。

（２）テッポウユリ初の八重品種「咲八姫」は，令和４年４月から出荷が始まっており，今後の生産拡大が期待されるが，高温や低温，日射量等に影響されやすいため，栽培技術の確立を図る必要がある。

（３）露地栽培が可能な品種「スカイホルン」や「凛」は，施設が不要のため生産コスト低減が図られ，生産拡大が有望な品種である。

（４）生産の特徴として，需要期（12 月，３月）に気象変動の影響を安定生産ができず，契約販売がしにくい。

３　活動内容と成果

（１）テッポウユリ生産性の向上

ア　八重品種「咲八姫」の栽培技術向上及び PR 活動

園振協本部や関係機関と連携し，現地検討会及び室内検討会により栽培技術や出荷技術の支援を行った。また，栽培指針の改訂を行い生産者に配布した。

令和６年の出荷本数は，約 25,000 本で令和５年と比較して約２倍に増加し，今年度の植付球数は約 51,000 球で昨年度の約 1.5 倍に増加した。作型についても３月下旬～４月出しから３月中旬～４月出しに作期を拡大することができた。

「咲八姫」のブライダル需要開拓のため，花の大手仲卸業者と連携して作成したブライダルブーケ PR 資材(A5 チラシ)をブライダルフェアの来場者に配布し，

「咲八姫」の認知度向上に取り組んだ。

「咲八姫」現地検討会

「咲八姫」ブライダル PR 資材

イ　「スカイホルン」，「凛」の推進

関係機関と連携して，12 月出しと３月出しの露地栽培実証を行った。12 月出しにおいて，「スカイホルン」は「ひのもと」と比較して草丈が 10cm 程度高く，球根サイズも１サイズ落として輪数を確保することができた。生産者から「来年栽培したい」との声があり，栽培面積の拡大が期待される。

「スカイホルン」現地検討会

ウ　出荷予測技術確立に向けた栽培・環境データ収集

農研機構，農業開発総合センターと連携して鹿児島県育成品種「ピュアホルン」，「スカイホルン」の 12 月出し及び３月出しの栽培データ（球根サイズ，球根冷蔵期間と冷蔵温度，定植日，発蕾日，収穫開始と終了日），環境データ（温度）を収集した。今後，データを用いて精度の高い出荷予測が可能となることが期待される。

農研機構と打合せ

４　今後の課題

（１）八重品種「咲八姫」の作型毎の出荷率向上

（２）露地適応性品種「スカイホルン」，「凛」の普及拡大

（３）出荷予測技術の確立に向けたデータ収集

５　担当した普及職員

○肥後修一，市来佑悟